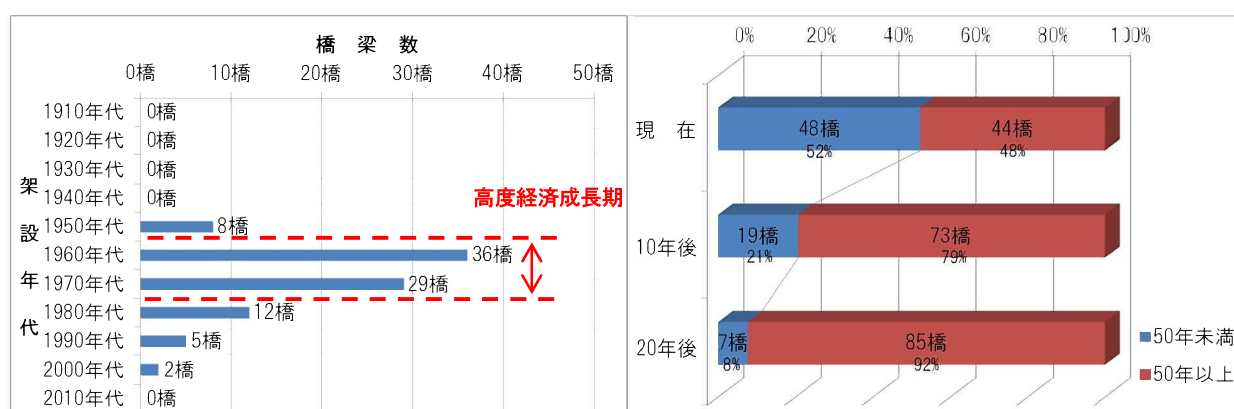


穴水町橋梁長寿命化修繕計画

1. 長寿命化修繕計画の背景と目的

- 穴水町が管理する橋長2m以上の道路橋は92橋あり、このうち建設後50年を経過する高齢化橋梁は全体の約48%を占めています。
- 20年後には高齢化橋梁が急増し、その割合は92%まで増加します。
- 高度経済成長期に大量に建設され、今後、高齢化の進む橋梁の安全を確保し、代替路を含めたネットワーク全体のサービス水準を維持します。
- これまでの事後保全的な対応から計画的かつ予防的な対応に転換することで、長寿命化によるコスト削減を図り、将来の大きな財政的負担を緩和・平準化し、道路交通の安全性を確保します。



2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

管理橋梁 92 橋の概要を以下に示します。

- ・ 管理橋梁は全橋梁 92 橋の内橋長 15m未満の橋が 69 橋であり、全体の 75%を占めています。
- ・ 桁下条件は、河川橋が 94.6% (87 橋) と大半を占めているが跨道橋は 2 橋 (2 号跨道橋、新崎橋) あり、跨線橋は 3 橋 (出町跨線橋、緑ヶ丘跨線橋、太田川跨線橋) です。

全 橋 梁	92 橋	橋長 2m 以上
計画対象	92 橋	23 橋 (橋長 15m 以上) + 69 橋 (橋長 2m 以上 15m 未満)
計画対象外	0 橋	

3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

定期点検は5年間隔で実施されるが、損傷は経年的に進行するため、緊急的な損傷がないか、職員による道路パトロール等で適時確認する必要があります。ここで想定される緊急的な損傷とは、通行車両に被害が生じる可能性がある路面の異常、桁下の道路利用者に被害が生じるといったコンクリートの剥落等です。

また、維持管理作業の中で、土砂撤去・排水口清掃、露出した鉄筋の防錆処理といった簡易な補修・修繕作業を行うことで、劣化の進行を抑制することが可能です。

4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替え費用の縮減に関する基本的な方針

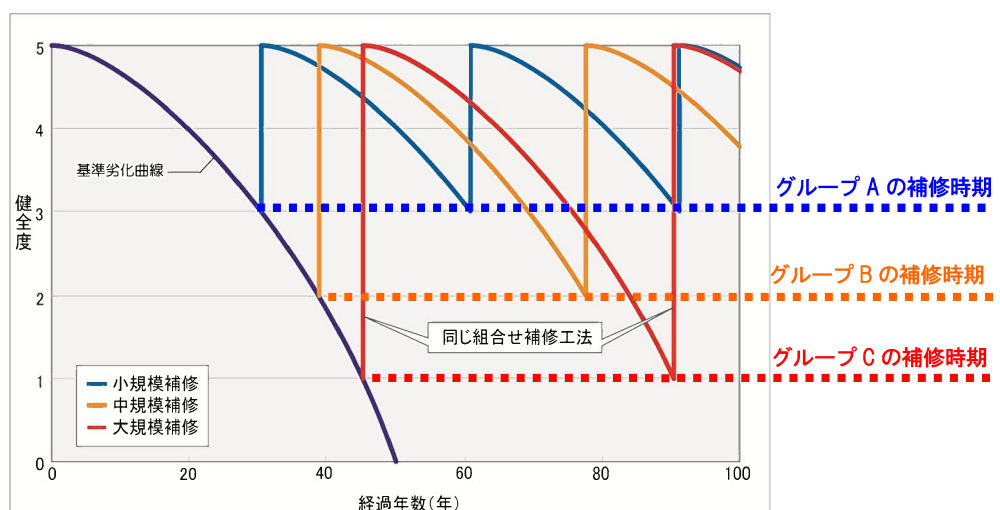
○ 穴水町では、現在、重度の劣化損傷が生じている橋梁（N=2 橋：出町跨線橋、宮古橋）は少なく、既に予防保全の管理が実施されています。今後も将来的な維持管理費（ライフサイクルコスト）の縮減と維持・更新費の平準化を図ります。

○ 穴水町では、路線の重要度・架橋条件（桁下の利用状況など）・橋長などに応じた分類（グルーピング）を行い、グループの重要度に応じた管理目標を定め、橋梁健全度が管理目標を下回らないように、計画的に補修を行います。

橋の健全性を示す指標として、健全度を1～5の5段階に区分し、橋梁毎に管理目標を設定します。

表 健全度の定義

健全度		損傷状況 及び 対応
良 ↑ ↓ 悪	5	劣化損傷が認められない
	4	些細な劣化損傷のみで、点検記録を継続する
	3	軽度の劣化損傷があり、計画的に維持管理補修する
	2	重度の劣化損傷があり、早急な補修対策が必要
	1	甚大な損傷で安全確保に支障をきたす（通行止め）



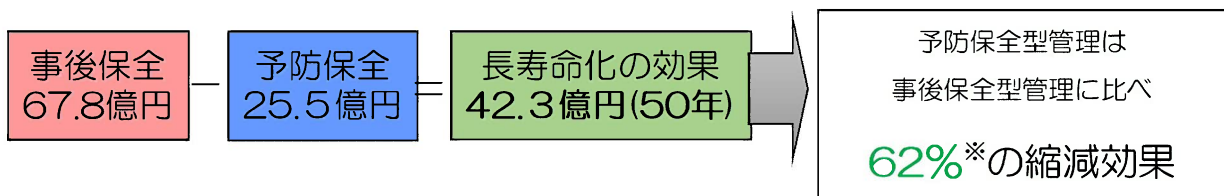
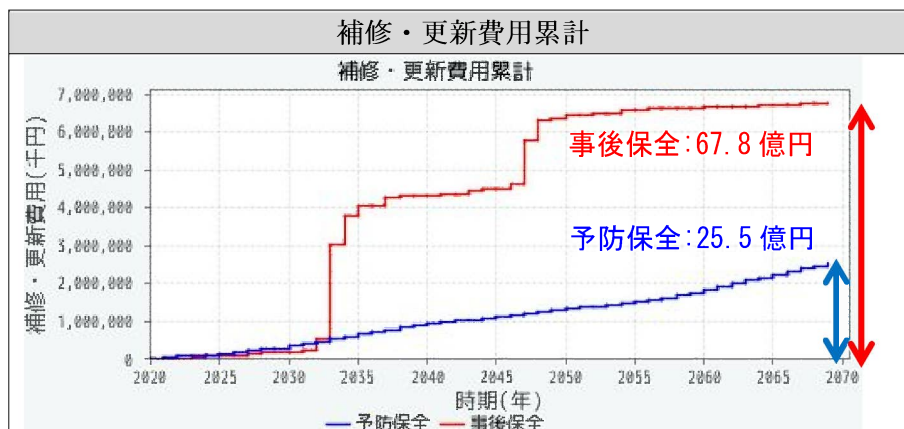
5. 長寿命化修繕計画策定による効果

○ 道路ネットワークの安全性と信頼性の確保

- ・修繕計画に基づき点検・修繕を行うことで、橋梁の健全度の把握や道路利用者の事故を未然に防ぎ、道路ネットワークの安全性確保を図ります。
- ・橋梁の重要度に合わせた管理目標の設定により、橋梁の安全性と道路ネットワークの信頼性を確保できます。

○ 橋梁の維持管理コストの縮減

- ・今後50年間の解析の結果、事後保全型管理で“67.8億円”、予防保全型管理で“25.5億円”必要となると試算され、予防保全型管理により、42.3億円（約62%）の修繕費削減を期待できます。



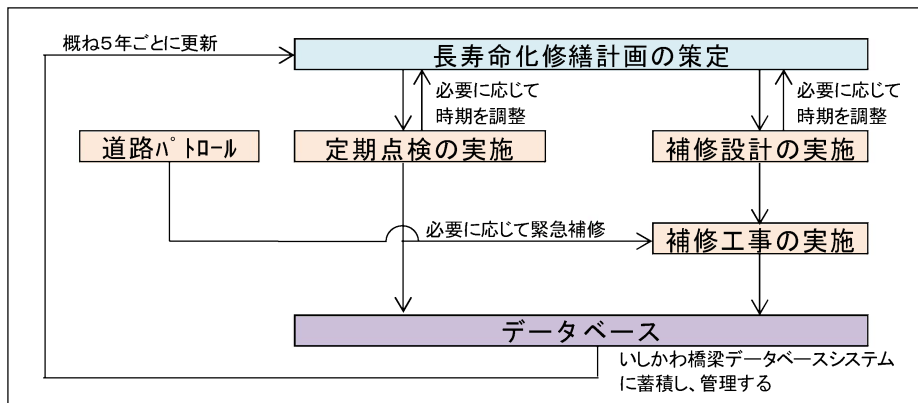
※62% (≒62.3 : 長寿命化の効果 42.3億円 / 事後保全 67.8億円 × 100)

○ 予算の平準化による計画的な修繕工事の実施

- ・今後見込まれる維持修繕費を穴水町の予算に合わせて平準化することで、修繕時期の集中による財政負担を緩和が期待できます。
- ・橋梁の重要度および健全度による優先順位をもとに平準化を行ったことで、より効果的な予算計画を立案しています。

6. 今後の方針

今後は、策定された長寿命化修繕計画に基づき、点検および補修設計・工事を実施します。



7. 橋梁の集約・撤去や新技術の活用に関する短期的な数値目標及びコスト縮減効果(案)

○橋梁の集約・撤去

迂回路が存在し集約可能な橋梁について、令和7年度までに1橋程度の集約化・撤去を検討する。

○新技術の活用

令和7年までに、管理する橋梁のうち92橋について新技術を活用し、従来技術を活用した場合と比較して2百万円のコスト縮減を目指す。

※橋梁の集約・撤去及び新技術の活用については、今後、学識経験者との協議及び技術的指導や助言を受けながら本計画を更新する。

8. 意見をいただいた学識経験者

この計画を策定するにあたり、石川工業高等専門学校 環境都市工学科 津田 誠 准教授より助言をいただきました。

9. 計画策定担当部署

穴水町 地域整備課 TEL:0768-52-3660